

おかえり 子どもチーム

発表者 長田 川端 山空

【テーマ】

子どもの放課後を充実させる

【動機】

親が忙しくて子ども達だけで過ごす家庭にが多いように感じたため
また、子どもだけで過ごす時間が長く寂しい思いをしている子がいるかもしれないと考えたため

【予想される問題】

コミュニケーション能力の低下や学力の低下

【調査 & 実行計画】

1、ニーズの調査

服織小学校に協力していただきアンケートを実施。
集計結果から、実際にニーズがあるかを把握します

2、対策

時間が限られているため、考えられる対策案を並行して実行。
多世代交流の場が有効な対策案と考え、初対面・異年齢でも楽しめるような方法を考えます。

子ども達を取り巻く様々な社会の問題

- ・核家族世帯
 - ・ひとり親世帯
 - ・共働き世帯
 - ・困窮世帯
- 等

子ども達の日常

- ・学校
- ・習い事
- ・友達と遊ぶ
- ・児童クラブ
- ・子どもだけで留守番



昭和の子ども達とは異なった環境

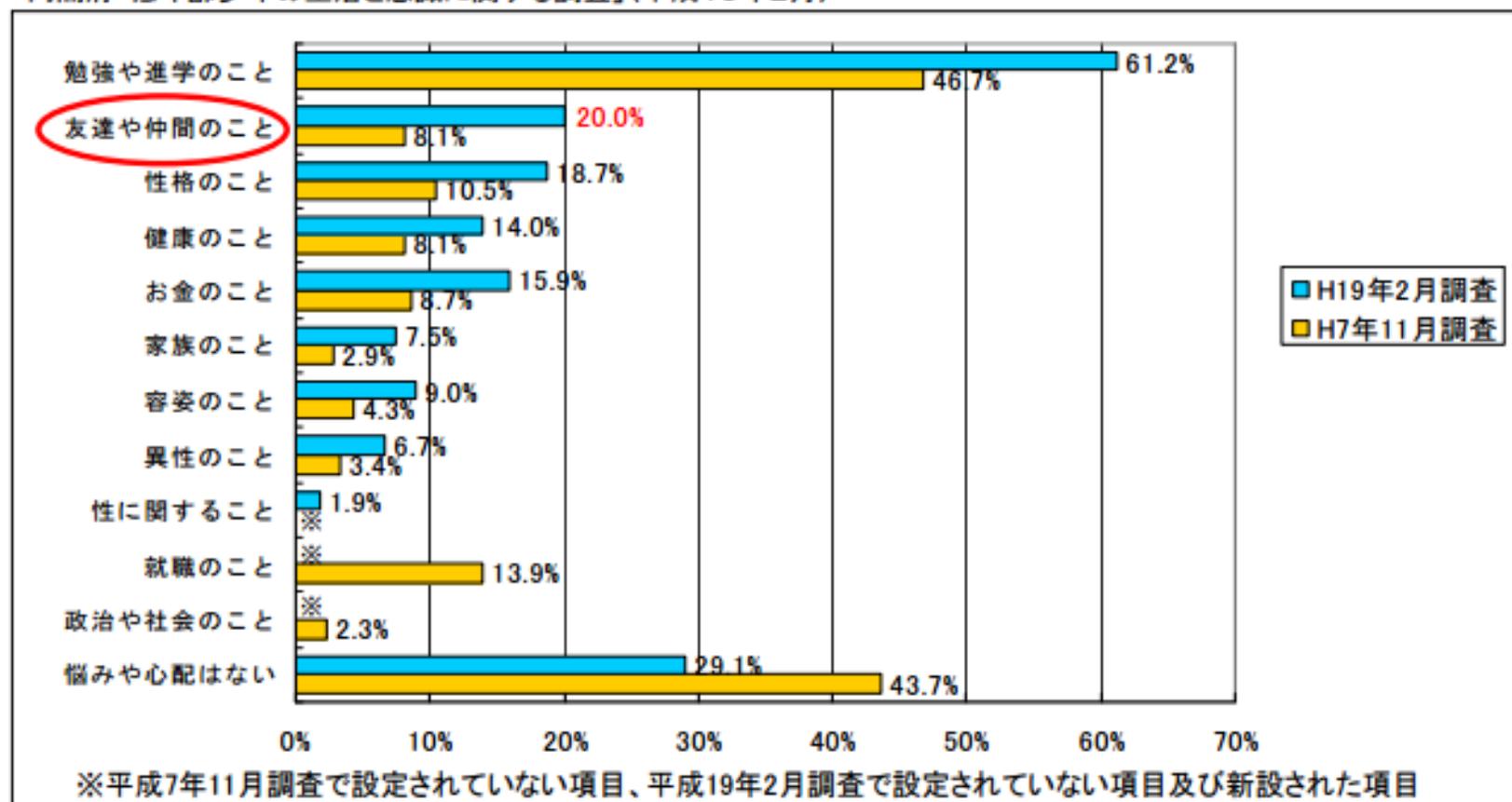
- ・ゲーム
 - ・テレビ
 - ・インターネット
 - ・スマホ
 - ・SNS
- 様々なコミュニケーションツールがある環境

悩みや心配事（中学生）

中学生を対象に、悩みや心配事について今回（平成19年2月）と平成7年11月調査を比較してみると、「悩みや心配はない」と答えた者の割合が低下（43.7%→29.1%）しており、ほとんどの項目で平成7年11月調査よりも高い割合となっている。

特に「友達や仲間のこと」で心配事があると答えた中学生の割合は、「8.1%」から「20.0%」に上昇している。

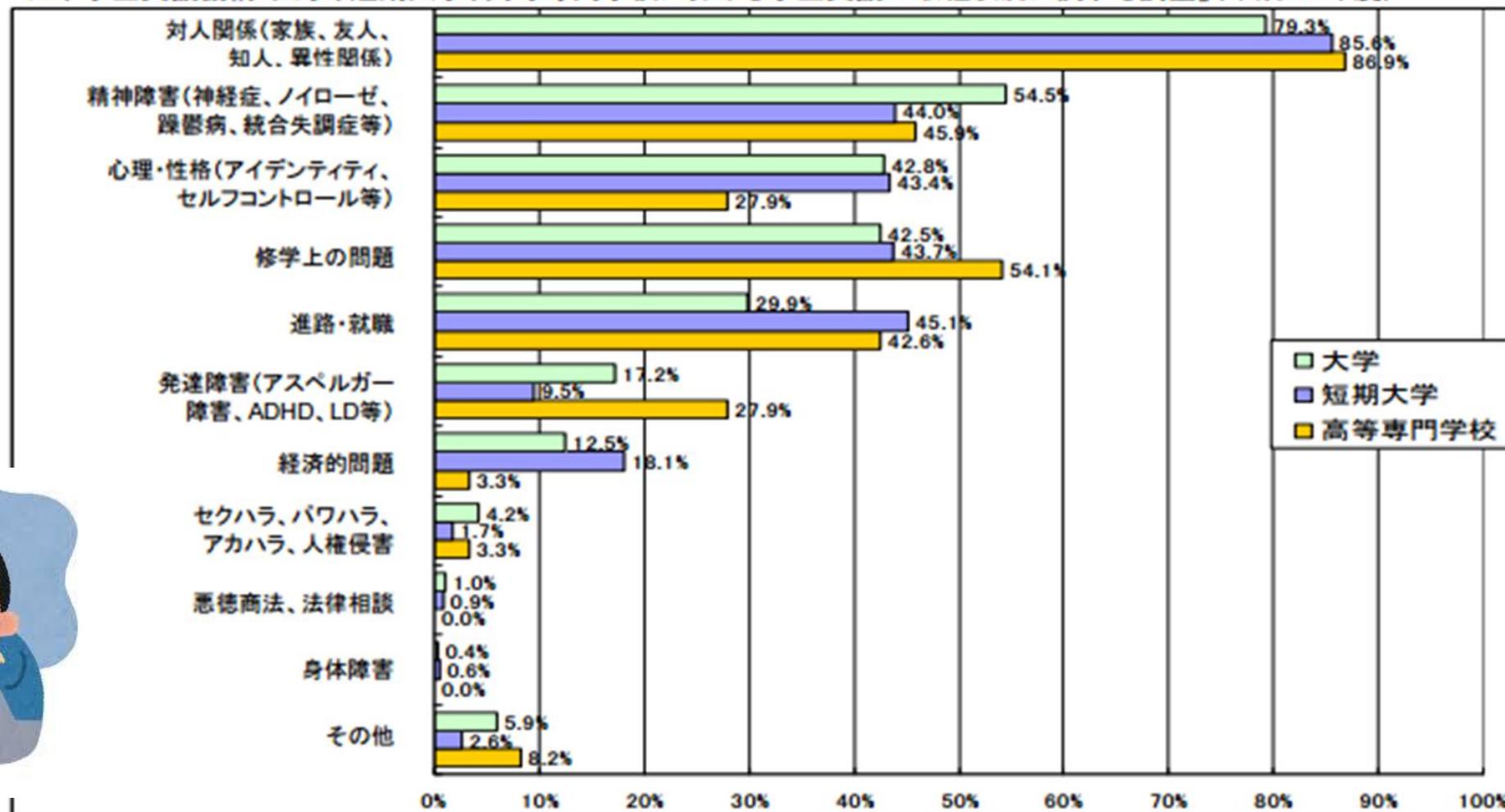
内閣府「低年齢少年の生活と意識に関する調査」（平成19年2月）



最近の学生相談の内容

約8割の大学等において、家族、友人などの対人関係に関する学生相談が増加していると回答している。

日本学生支援機構「大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査」(平成20年度)



現状 人間関係で悩んでいる学生が多い



文部科学省平成23年8月29日 コミュニケーション教育推進会議 審議経過報告より

インターネットを通じたコミュニケーションが子どもたちに普及している一方、外での遊びや自然体験等の機会の減少により、身体性や身体感覚が乏しくなっていることが他者との関係づくりに負の影響を及ぼしている。

子どもたちは気の合う限られた集団の中でのみコミュニケーションをとる傾向が見られ、コミュニケーションをとっているつもりが、実際は自分の思いを一方向的に伝えているにすぎない場合が多い。

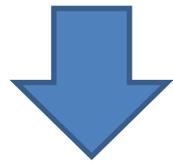
班としての活動 参加者年齢別人数

	男子	女子	大人	
未就学児	9	7	5	21
1年生	4	7	7	18
2年生	7	12	8	27
3年生	17	10	3	30
4年生	6	8	2	16
5年生	3	3	0	6
6年生	8	8	0	16
中学生以上	1	3	0	4
	55	58	25	138

大人 一緒に来た子どもの中で1番年の大きい子の学年で集計

班としての活動 気が付いたこと

- どの学年・性別も1人で訪れている子がいたが、ボードゲームを間に挟むことで、声をかけると知らない子の輪に入り一緒に遊ぶことが出来た。
- 先に遊んでいた子がルールをマスターすると後から来た子に教えたり、連携してゲームを進めることが出来た。
- 大人が立って見ていると子どもから誘って一緒に遊んでいた。



放課後や休日に何らかの事情で子どもだけで過ごしている子どもが外に出るきっかけを作ることが出来れば
ひとりだけで訪れても参加者同士のコミュニケーションが生まれ日常会話のスキルや人間関係を築く練習になるのではないだろうか